

関ヶ原古戦場の整備に向けた方向性

今後、以下に掲げるテーマごとに、さらに議論を深めていく。

○ 東西が出会う「大地の物語」（文化）の重点的な展開

- ・ 関ヶ原は、「関ヶ原の戦い」の地のみならず、東西文化の集積地。東西の食文化、中山道の3つの宿場（垂井宿、関ヶ原宿、今須宿）など、歴史に加えて「文化を訪ねる観光」を推進していく。
- ・ 東西に分かれて参加した武将の出身地域との連携、交流を推進していく。

○ ビジターセンターの機能、他の施設との役割分担

- ・ ガイダンス機能を中心とするビジターセンター、インフォメーション機能を中心とする関ヶ原駅前観光交流館、学習・体験機能を中心とする旧関ヶ原北小学校（アーカイブス、セミナールーム、常設型体験観光施設）という、3つの施設の役割分担を明確にする。
- ・ 現在の歴史民俗資料館の機能拡充に留まるのか、ガイダンス機能に加えて博物館機能を持つのか、整備方針を整理していく。

○ コンテンツの充実

- ・ 展示コンテンツは、ビジターセンターに備える機能を踏まえて、展示品を収集あるいは制作し、充実する。
- ・ 映像コンテンツは、「関ヶ原の戦い」などを来訪者にわかりやすく説明できるものを制作する。
- ・ アーカイブスは、娯楽性の高い資料だけではなく学習や研究に活用できる資料も収集する。

○ 関ヶ原古戦場の面的な整備

- ・ 陣跡単体での整備に留まらず、周遊させることを意識した誘導サインやアクセス道路など、面的なインフラ整備を進めていく。
- ・ 史跡指定地内に留まらず、周辺の土地も含めて整備を行い、古戦場の陣跡の典型的な姿を作り上げていく。